

四谷の

千枚田だより



第 225 号



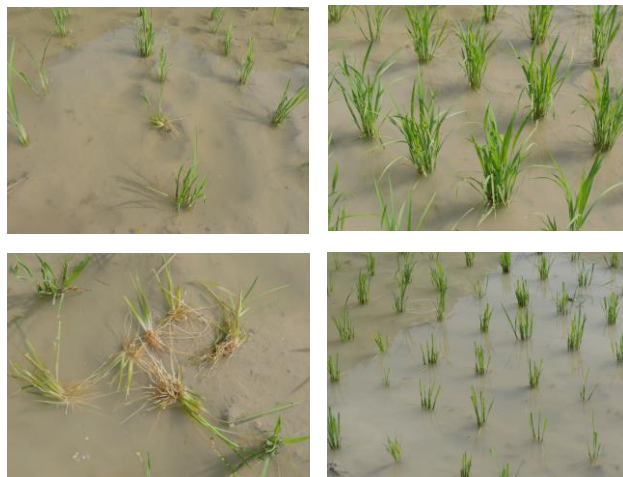
6月4日開催予定であった「お田植感謝の夕べ」～みんなで灯そう千枚田～はコロナ感染症対策を鑑み、苦渋の結果5月22日午後6時に中止の判断をいたしました



こまったもんだ(獣害被害)

六月一日の朝、水回りに行ったところ、我が家の田んぼの育ち盛りの稲がニホンジカに無性やたらと食い荒らされていた。

写真右上が正常な早苗。下は刈ったように食べられた状況。左上は所どころ抜き取られた状況。下は抜き取られた稲。



獣害対策として、平成二十九年度鳥獣被害防止総合対策事業自立施工侵入防止柵事業の採択を受け、千枚田を真正面に見る左方面と「ふれあい広場」から天王橋下付近までは侵入防止柵を設置したが、古宿から中島にかけては防獣電気柵で個人

対策の手段を講じたものの、害獣のイノシシは豚コレラの影響で極端に減少、ニホンジカの拡大が顕著で、個体は跳躍力にすぐれ、群れも形成するまったくの厄介者である。

食生もどんどん進化し、植え付けられた稲が旨いとか、稲穂(実)の旨さを知ってしまったら…と思うと、ゾットする。

今、ホタルのシーズンで、毎夜、ホタルの撮影の行き帰りには古宿付近で必ずニホンジカと出くわす。困ったもんだ、何とかしなければ…



被害は農作物に留まらず、天然記念物のニホンカモシカの生息域にも大きな影響が生じている。

○好物である餌場(アオキ)の消失。

○ニホンジカの攻撃でほとんどの個体が大きな傷を負っている。等々。



環境整備活動

五月二十八日、保存会は「千枚田入口付近とふれあい広場」の草刈りを行った。

本来なら「お田植感謝の夕べ」の環境整備を兼ねての活動であるが、コロナ禍でイベントが中止となり、草刈り作業のみとなった。

毎年、同じ時期に実施しているが、今年は、例年に比べ、ススキなどの雑草が小さい、その要因として、ニホンジカがセイタカアワダチソウやススキ、イタドリを食べた等々、興味ある話題が会員から続出した。



田の草取り&梅取り

六月二日、豊橋調理製菓専門学校生は五月十二日に植えた田んぼの草取りを行った。学生たちは自ら植えた稲の生長の速さに感動、生育調査や田の草取りを真剣に行った。



田の草取りを終えた学生は、梅を収穫。梅ジュースなど、レシピの教材として活用される。

続 こまつたもんだ(獣害被害)

六月七日未明、古宿から佐賀あたりの多くの田んぼにニホンジカが侵入、育ち盛りの稲を食い荒らした。防獣電気柵を物ともせず飛び越えたり、突き破ったりして侵入、傍若無人な振る舞いが、目に余る。

耕作者は再度の侵入被害を想定、防獣電気柵の補強、また、漁網やテープを張り巡らし、対策に大わらわである。

校外学習

六月九日、市内八名小学校五年生(三十三名)は校外学習の一環として鳳来寺山と四谷の千枚田の自然、文化、歴史を学んだ。

児童たちは太古の昔、地殻変動の地を先人たちが築いた千枚田の労苦や、景観に圧倒。移植されたモリアオガエルやヤマアカガエル、また、ホタルなどの話に興味深々、有意義な校外学習となった。



ホタル舞う「和の里」千枚田

平成二十二年十月に開催されたCO2を契機にホタルの舞う環境づくりを地道に行った結果、今年も多くのホタルの乱舞がみることができた。



また、平成十四年に実施した親子観察会で移植したモリアオガエルも多くの産卵を確認した。自然も、何事も「手心」を加えれば可能であることが多様性に富んだ四谷の千枚田で実証された。

行 令和四年六月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二